

1 垂水市最北の地

海と山に囲まれた穏やかなまち

「牛根境（うしねさかい）」は、霧島市と隣接する垂水市最北の場所に位置しています。東には「始良カルデラ」からなる山地を背にし、西には鹿児島県の母なる海「錦江湾（鹿児島湾）」を臨むことのできる、山と海に囲まれた場所です。

「境」という地名の由来は、曾於郡と大隅郡の境にあるため「境」になったといわれています。語源は「サツカイ」という砂瀉を意味し、「海岸の静かなところ」をいいます。



QR 牛根境の詳細な場所は、目次（2ページ）下のQRコードからご覧いただけます。

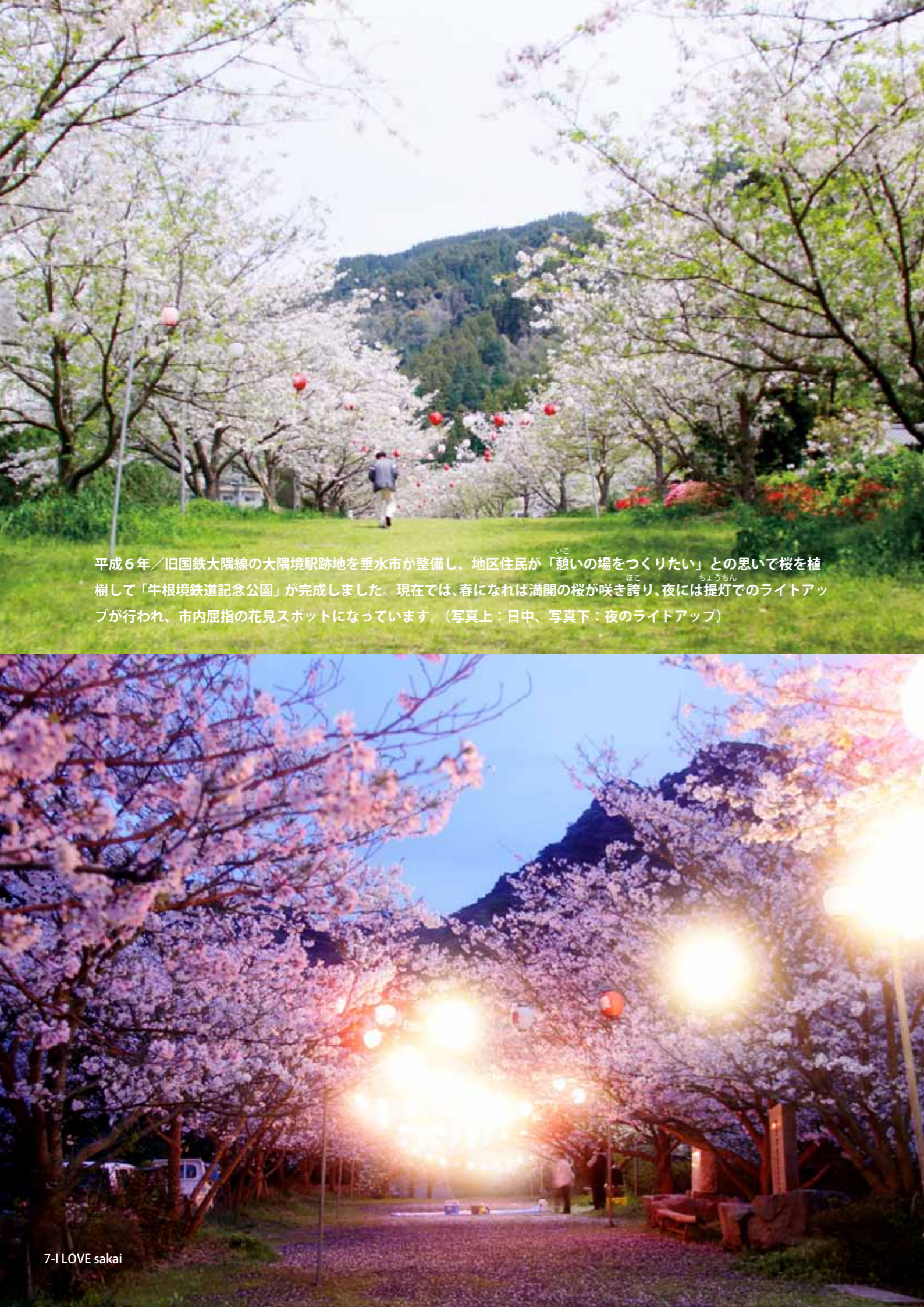
この地区は、旧藩時代には「曾於郡福山村境」となり、その後、牛根二川地区との地理的な近さや、親族の往来や結婚等も多かったため、明治初年に「牛根村境」となりました。この地は、弥生時代から漁業が盛んであったといわれ、それは老神神社前から出土した弥生式土器から見てとることができます。弥生時代には、下宮神社の下まで入江になっていて、小舟の停泊としては最適で、福山の宮之浦を出帆した神武天皇がこの地に停泊し、この港から瀬戸海峡に向けて出帆されたという伝説も伝えられています。

活気にあふれていて、とても栄えた地区でした。近年では、少子高齢化が進み、昭和49年に1904人いた人口は、平成27年4月には719人と減少していますが、現在でも漁業関係者が大半を占める漁業のまちで、ピワ栽培も行われています。また、境小学校の新教員歓迎会では、「甘く煮たブリの頭をかじらせる」行事が今も続いています。その他に、全国に名高いかめ壺焼酎「森伊蔵」の酒蔵などがあり、比較的人口密度が高く、国道沿いには商店街が形成されています。

ダイジェスト HISTORY ① 牛根境の歴史

- 明治 11 年 境簡易科小学創設
- 明治 22 年 垂水村、牛根村、新城村が発足
- 大正 3 年 桜島の大爆発（大正噴火）
- 昭和 30 年 牛根村、旧垂水町、新城村を統廃合⇒垂水町の誕生
- 昭和 33 年 垂水市制施行（垂水町⇒垂水市）
- 昭和 47 年 境小学校校舎改築
- 昭和 55 年 境地区公民館 完成
- 平成 6 年 牛根境鉄道記念公園 完成 光村記念館 完成
- 平成 22 年 牛根中学校統廃合

◎境小学校 ◎境小学校新教員歓迎会 ◎老神神社



平成6年／旧国鉄大隅線の大隅境駅跡地を垂水市が整備し、地区住民が「憩いの場をつくりたい」との思いで桜を植樹して「牛根境鉄道記念公園」が完成しました。現在では、春になれば満開の桜が咲き誇り、夜には提灯でのライトアップが行われ、市内屈指の花見スポットになっています。（写真上：日中、写真下：夜のライトアップ）